加納伊都後援会 TRAUBEN ニュースレター

STRUM シュトゥルム

第 28 号　平成 27 年 7 月 1 日発行

昼間は蒸し暑い日も多くなりましたが、まだまだ朝夕は涼しい風が吹いてくるこの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。イギリスから便りと写真が届く度、元気で頑張っている伊都さんに TRAUBEN はお水をもらって、またシャキッと元気になります。今年はイギリス館コンサートも出来そうで楽しみですね。８年目の TRAUBEN をよろしくお願いいたします。

近況報告

ロンドンにもようやく初夏がやってきました！６月は一年で一番晴れの日が多いということでエリザベス女王の公式誕生日パレードもあり（当日は残念ながら曇り空でしたが）、夏に向けて野外シアターや、イギリスの象徴でもあるバラ（イギリス人は本当にバラが大好きです）が最盛期を迎えることから、各地の貴族の館や庭が解放されるなど、なんだかんだ言ってもかつての大英帝国、その文化国としての底力とそしていまだ新しい文化を発信するパワーは、尽きぬ好奇心を刺激してやまない街です。

今年は、少し郊外に足を踏み入れれば緑あふれる、ピーターラビットの景色の中、いたるところに点在する、元貴族の館や、個人宅で演奏する機会が多く、「高慢と偏見」のオースティンなどのコスチュームドラマ好きの私の乙女心を大いに満足させてもらっています。

７月半ばからはルーマニアにある東ヨーロッパの有名な避暑地での音楽祭で演奏したり、その後もいくつかのサロンコンサートや教会でのコンサートが続きますが、今年こそ少し遅くなっても TRAUBEN のコンサートで皆さんに演奏を聴いて頂けたらと思っています。

【伊都】

Photo Album by Ito

←先日演奏した
↓元貴族の館

↑ 有名なパワースポット

↑家の近くの公園で友人とパーティー

↓バラ園にて

イギリス館コンサートの日程について

近況報告の通り、次回の伊都さんの帰国は秋頃になりそうです。

イギリス館コンサートの詳しい日程は未定ですが、大体 10 月前後…という大まかな予定しか今のところ立っていません。

詳細がわかり次第、会員の皆さまにはご案内をお送り致しますのでもう少しお待ち下さい。

ホームページがリニューアルされました！

◆英語サイトができました！

伊都さんに必要な英語サイト、これで世界の人々に知ってもらえることに！！

◆YouTube 動画サイト

「Media」ページから YouTube の動画サイトにジャンプ！おなじみの「美しきロスマリン」「リベルタンゴ」など今のところ７曲がアップされています。

◆プロが撮った写真

「Photos」のページでは、リサイタルチラシなどに使われている、プロカメラマン撮影の写真が見られます。

いとちゃんの クラシック講座

op.23

イギリス人はプライドが高い！とよく言われますが、一番それを感じるのは、自分たちの民族にとても誇りを持っていてそれを隠そうとしないところのように思います。ただ一口にイギリス人と言ってもこの中にスコットランド、北アイルランド、ウェールズ、そしてイングランドとこの４つのエリアの区別はかなりしっかり確率しているようで、同じ出身の人が３人集まれば（もしくはどこか一つのエリアが欠けている場合なども）違うところの訛りや文化をかなり辛辣に、でも面白おかしく話題に載せるのが常套で、その背景には４つの国の長い歴史と確執があるので、外国人の私にはちょっと計り知れない部分なのですが、ただ一つこの全員に共通する、つまり外人からみるところのイギリス人に共通するのは、好き嫌い、特に食べ物に対する好みが激しいというところです。

英語で “fussy” というのですが、食事をするときイギリス人のほぼ全員が何かしら食べられないものがある、もしくはベジタリアンなどで食べないと決めているものがあり、メニューを決めるのに苦労するというのが常です。肉は食べるけどポテトとチーズはだめ、逆に小さな（大きいのはダメ）ポテトは大丈夫だけど、肉はダメで魚も小骨の多いものはダメ、生の魚はダメで、豆は大丈夫だけどトマトはダメ、などきりがないくらいダメなものが多いことはざらで、何でもけっこう大好きでおいしければいいじゃん！というスタンスの私は、人生損してるんじゃないか・・と思うことしきりなのですが、これが実は音楽の趣味にも共通してることが結構あります。

一番の NG は現代音楽なのですが、プライドの高いイギリス人、とりあえず聴いてみよう・・という姿勢がないことも多く、嫌いだからやめて！とかなりきつく言われることもしばしば、コンサートの途中で嫌いな曲だからと帰ってしまうこともあります。だからといって他の演奏には手放しで絶賛をしてくれたりと、島国で日本人と同じように空気を読むことにも長けていながら、日本人とは大いに違う部分に、時々圧倒されつつも面白く、この国の深みにはまりつつあるようです。

【伊都】

DVD Classic Collection

作品 No.23

「プライドと偏見」

2005 年 イギリス

美しいイギリスを堪能するラブストーリー

あらすじ

18 世紀末のイギリスの田舎町に暮らすベネット家の５人姉妹。女性に相続権がないこの時代は、資産家との結婚を誰もが望んでいた。近所に引っ越してきた独身の大富豪ビングリーと長女ジェーンはいい雰囲気になるが、次女のエリザベスはビングリーの親友ダーシーの高慢な態度に反感を抱く。その上、あらぬ誤解からダーシーへの嫌悪感を募らせるエリザベスだが…

見どころ

撮影はオールイングランド・ロケで行われ、美しい田園風景や貴族の豪邸が多数見られる。バックに流れるクラシカルな音楽も映像とぴったり。主演のエリザベス役は「パイレーツ・オブ・カリビアン」でブレイクしたキーラ・ナイトレイ。この時代に自分の考えでしっかりと物を言う、知的な女性を好演している。原作はイギリスを代表する女流作家ジェーン・オースティン。

感想

高慢で気難しくて感じの悪い嫌な男が、実は…という、少女漫画の原点のような話、と言うと、イギリス文学に怒られそうだが。そこはジェーン・オースティン、彼女が生きた 18 世紀の終わりから 19 世紀にかけての時代背景を考えると、女性の地位が低くとも高潔で正直な生き方は、現代にも何か訴えるものがある。当時のイギリスのアッパーミドルクラスの女性は日本の下級武士の妻や娘と、どことなく似ているなぁ、と思った。今回は音楽ではなく、伊都さんの文章からの選択。

＊DVD は TSUTAYA の店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介しています

編集後記　ブリテンズゴットタレントという、イギリスで人気のオーディション番組を YouTube でたまに見ます。あのスーザン・ボイルが出た番組で、審査員のサイモン・コーウェルの辛口ジャッジでも有名です。／そこで昨年優勝した COLLABRO(コラブロ) という20代前半の若い男性ヴォーカル5人グループの初来日ライブを見てきました。彼らはミュージカル曲を歌うグループなのですが、生で聴くとホントにうまい！／日本ではそういう若い実力のある本格派が評価される土壌がないなーと、イギリス文化の厚みをつくづく感じました。／ウインブルドンでは錦織圭選手が活躍し、現地でも人気だとか…／イギリス人に負けない日本人のプライドを胸に、伊都さんは今日も頑張っていることでしょう。　〈ゆ〉

発行：加納伊都後援会ＴＲＡＵＢＥＮ
〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15
TEL ：０４５－６２２－６７８０
FAX：０４５－６２１－６４２３
Email：trauben@itokanoh.com
Homepage： itokanoh.com